

第11回「満蒙開拓青少年義勇軍」シンポジウム

満州へ行けず、戦後開拓に松川村へ入植した 「最後の義勇軍」の少年たち

昭和20(1945)年春、青少年義勇軍として満州での開拓を夢見て内原訓練所へ入所した少年たちは、満州へ行くことなく8月には終戦を迎え、解散しました。

その時長野県出身者の中に、「故郷を離れて国内での開拓をしよう」とした中隊長と、その呼びかけに応じた少年たちがいました。彼らは戦後開拓として長野県松川村の高瀬川流域の開墾を始めました。そして、数々の困難を克服しながら何年もかかって安定した農業経営と生活を獲得し、今日に至りました。

今回は、その「最後の義勇軍」の一人であった宮崎弘さんに、義勇軍に志願した動機や学校教育との関わり、終戦後に国内開拓を決意したいきさつ、戦後開拓の苦勞と生き甲斐などについて語っていただき、青少年義勇軍や戦後開拓について考えたいと思います。



義勇軍入隊のための身体検査の後
1945(昭和20)年3月善光寺にて
前列の左が宮崎弘さん

日時 10月18日(日) 午後1時 開会

会場 松川村「すずの音ホール」(多目的交流センター)

北安曇郡松川村84-1 電話0261(62)2481(裏面に地図)

資料代 500円

午後 0:30 開場 1:00 開会

1. 開会行事(開会挨拶)
2. 青少年義勇軍とは? 「最後の義勇軍」の戦後開拓について
3. 「最後の義勇軍」体験者の証言
宮崎弘さん(松川村)
4. 質疑・参加者からの発言
5. 閉会行事(まとめ、閉会挨拶) 4:30 終了予定

※ 会場に松川村の戦後開拓の写真展示があります

※新型コロナウイルス感染予防対策をしてシンポジウムを実施します。

○体調のすぐれない方の参加のお断りと、マスク使用をお願いします。

○ソーシャルディスタンスの確保と、参加者のお名前等の記入もお願いします。

連絡先

藤原恵正 Tel090-7837-0220 安曇野市穂高柏原572

「満蒙開拓青少年義勇軍」と 「最後の義勇軍」の少年たちの戦後開拓

アジア・太平洋戦争中、高等科卒業生（14歳、今の中学3年生）を中心に約8万6000人もの少年たちが、「満州」（中国東北部）に渡り、義勇隊訓練所で食料生産にあたりるとともに、関東軍（満州にいた日本陸軍）の補完部隊となった。この少年たちが「満蒙開拓青少年義勇軍」（昭和13～20年）である。

当時の国策でもあったため、各学校には送出数の割当が押しつけられ、教師たちは学校をあげて強力に子どもたちに働きかけ、長野県からは全国1位の約7,000人を送出した。しかし、満州に渡った少年たちは、敗戦の混乱の中1,500人以上が犠牲となり、生きのびた者も九死に一生を得て帰還したが多かった。

一方、昭和20年に内原訓練所に入所した「最後の義勇軍」の少年たちは、満州へ渡ることができないまま終戦を迎えた。この少年たちの一部は、中隊長の呼びかけに応じて、終戦直後に戦後開拓として松川村に入植し、困難の中、共同生活をしながら高瀬川流域の開墾を進めた。

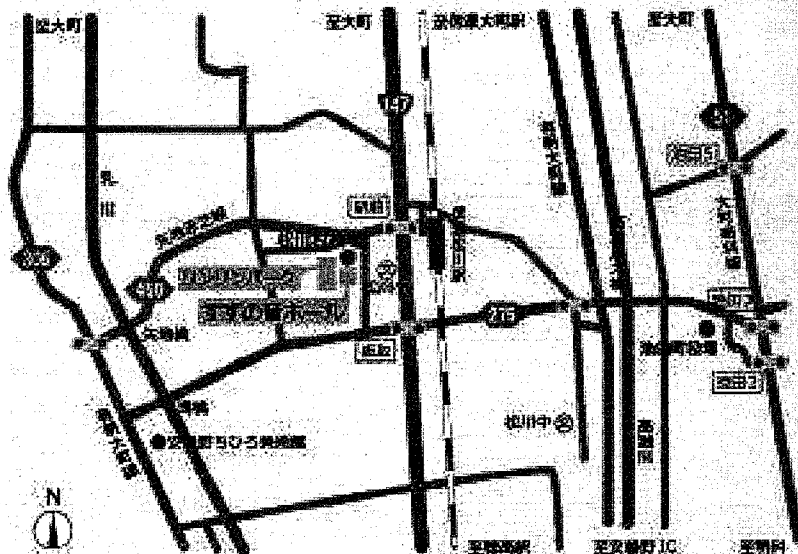


田植えの後、開拓の仲間と早乙女の皆さんと共に
1953(昭和28)年6月 前列中央が渡辺組合長

会場案内図

会場は

すずの音ホール



交通 JR大糸線信濃松川駅から徒歩・・・5分
長野道安曇野ICから車で・・・25分

主催 「満蒙開拓青少年義勇軍」シンポジウム実行委員会

後援 長野県教育委員会、松川村教育委員会、満蒙開拓平和記念館、信濃教育会、一般社団法人北安曇教育会、長野県教職員組合、長野県高等学校教職員組合、信濃毎日新聞社、中日新聞社、朝日新聞松本支局、毎日新聞松本支局、読売新聞松本支局、市民タイムス、MGプレス